

麻生区区民会議 第2回 市民活動・地域活動の活性化部会 議事要旨

- 1 開催日時：平成27年1月20日（火）午後3時00分～午後4時55分
- 2 開催場所：麻生区役所第3会議室
- 3 出席者：[専門部会委員]
岡倉委員、高橋委員、石井委員、石川委員、植木委員、小尾委員、高倉委員、
林委員、宮本委員、（横田委員は欠席）
[事務局] 鈴木企画課長、白石、麻生 [コンサルタント] 中島
- 4 傍聴者 0名
- 5 報告
 - ・麻生区で子育て世代に対して1月から子育て支援アプリの実証実験を開始した旨、資料を元に事務局より説明。
 - ※子育てに関連して、麻生区の子育てサポートについての質問
→確認して、次回説明する。
- 6 議事
 - ・ボランティアを増やすため、社会福祉協議会では2月に「麻生区ボランティアのつどい」を開催する。
 - ・里山など、現場でボランティアを育てる講座がある。
 - ・ボランティアポイント制度は、介護分野で横浜市で実施している。ボランティアの登録から活動までコーディネート機能が整っており、参加しやすいところに利点がある。
 - ・ポイントをもらうことが目的ではない。ボランティアする上で励みになるもの、楽しみがあるとよい。
 - ・ボランティアに入りやすい情報提供が必要である。
 - ・やまゆりでは、定年退職者に向けたセミナーを開催している。運営スタッフは、有償であるが僅か。金銭目的ではなく、仲間づくりなど他に楽しみがあるから参加している。ボランティア目的のみでは限界がある。
 - ・仲間ができれば横に広がっていく。
 - ・定年退職した男性、最近は妻に唆されてボランティア講座に参加する人が多い。
 - ・麻生区民は、平均寿命が長く、現役時に社会的にも活躍してきた人が多いため、ボランティアの数は、他都市に比べて多いと思う。必要なのは、参加への背中を押す仕組み。
 - ・区役所、市民館、やまゆり、社会福祉協議会など、それぞれの機関がいいことを行っているが、それが伝わっていない。
 - ・健康に関する活動の一つ挙げても、色々なところでスポーツや体操などを行っており、それぞれが広報紙を発行していて、把握できない。
 - ・岡上で卓球を楽しんでいるが、シニア層が多くなり、場所が取りにくくなっている。
 - ・健康づくりでいえば、デイサービス等、70代～80代に対する受け皿ができています。
 - ・食生活改善推進委員の成り手が減っている。配食サービスの提供者の高齢化が課題になっている。

ている。

- ・麻生市民館では、生涯学習相談員が、生涯学習の情報提供を行っている。
- ・相談機能をそれぞれの機関がバラバラにもっているため、統一した窓口を持つよう区に要請している。
- ・「知縁」との対比として、「地縁」の町内会、自治会では、広報、美化活動、防犯灯、防災訓練など様々な分野で貢献している。（民生委員、スポーツ推進員、青少年指導委員等の選出、各団体への資金拠出、祭りや美化活動、敬老祝い、防犯灯管理等の実施）。子ども達が故郷といえるような地域づくり、一軒一軒が顔が見える関係づくりを目指して、活動している。
- ・回覧版には麻生区の情報が詰まっている。広報の仕方によって伝わり方が異なる。写真が沢山掲載している「やまゆり」の広報紙はよい。
- ・やまゆりは区民記者を活用している。先進的な町内会の例も記事に取り入れている。
- ・町内会、自治会の中では防災の分野、とりわけ障害者の避難所の確保が問題となっている。
- ・高齢者とシニアはイコールなのか。高齢者と思いたくない人は沢山いる。
- ・高齢者が外に出ないとはどういう意味なのか、地域から見るとわからない。外に出たい人もいれば家族と一緒に家にいたい人もいる。核家族化の問題も影響している。
- ・ターゲットを定めて、ターゲットの環境やそれに応じて必要となる情報提供や支援を考えていく必要がある。

7 確認事項

本部会の名称を、（仮称）をとって「市民活動・地域活動の活性化部会」とする旨、確認を得た。

○次回は、今回の議事のポイントをまとめた方向性（案）を元に、更に審議する旨、確認を得た。

以上